

【連載：「試聴室探訪記」第32回】  
～谷口ともりの、魅惑のパノラマ写真の世界～  
録音エンジニアのゆりかご  
東京藝術大学千住キャンパススタジオ訪問  
フォトグラファー 谷口 ともり・編集委員 森 芳久



スタジオ A (パノラマ映像 1)

しばらくお休みをしていました『試聴室探訪記』ですが、今回第 32 回は東京藝術大学千住キャンパスに設けられた素晴らしい録音スタジオを新年早々に訪問いたしました。ここ千住キャンパスは 2006 年 9 月、北千住駅に近い旧千寿小学校跡地を改装新築し、同大学音楽学部音楽環境創造科、同大学院音楽研究科音楽文化学専攻の学生たちの学び舎となっています。

大学キャンパスとしては比較的小さな校舎ですが、新しく改築しただけに最新の設備と校舎内にパティオが配され、とても落ち着いた雰囲気の中に明るさが満ちています。このキャンパスの設備で特に目を引くのがスタジオ A、スタジオ B の二つの本格的スタジオと録音調整室（コントロールルーム）です。録音エンジニアを目指す学生はもちろん、演奏者にとっても自らの演奏や作品発表、また実際の録音現場での経験を積むことができるなど、とても恵まれた環境（ハード）が整っているのです。設備はもちろん録音技術（ソフト）についても、その道のオーソリティー達が教授また講師として教壇に立ち、最新の録音技術や技法などのノウハウまで学ぶことができます。そして、このスタジオの監督・責任者は同大学で音響学・録音技法の研究と指導をされている亀川 徹 教授です。

現在このスタジオの稼働率は、約 30%が授業など、そして残りの 70%は学生の自由研究のために解放されています。録音技術や作品制作を志す学生にとってとても恵まれた環境といえるでしょう。亀川 先生によれば、このスタジオを自由に使うためにはまず一年間のスタジオ研修課程を履修し、スタジオ検定試験に合格した生徒だけにスタジオの使用許可が与えられるとのことでした。

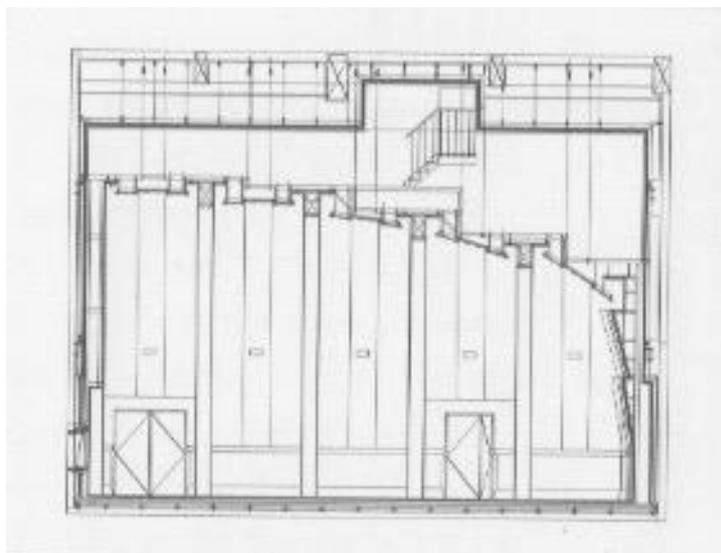
今回取材に伺ったとき、ちょうどスタジオ A ではピアノソロの録音中でした。そこで休憩時間を利用してスタジオ A のパノラマ写真をいつものように谷口ともりさんに撮影していただきました（パノラマ映像 1）。谷口さんのみごとな映像でスタジオ A の細部までゆっくりとご覧ください。

この映像には映っていませんが、BGM として流れている音源は当日録音していたピアノ曲で、演奏は同大学大学院ピアノ科修士課程 3 年の黒岩 航紀さんです。またこの録音を担当しているのも同大学大学院音楽研究科修士課程 2 年の椎葉 爽さんです。

スタジオ A は新館 3F に位置し、部屋の容積は、11,700(W)×14,800(L)×7,300 (H) mm、床面積は約 160 m<sup>2</sup>と大規模なもので千住キャンパスの心臓部といえます。このスタジオ設計に当たっては、残響時間などの値だけでなく録音に適した部屋としての響きを追求し、以下の 3 点の目標が示されました。

- ① 演奏者が演奏しやすい響き
- ② 録音に適した響き
- ③ スタジオ内で聴いて心地良い響き

そしてこれらの響きを実現するため、最終工程では演奏者にそこで演奏してもらい音響的な詰めを行ったとのこと。防音にも細心の注意を払い空調の引き回し方法などを改善し NC 値 15 以下を実現しています。ご参考までにスタジオ A の長手方向垂直断面図（図 1）を示しました。



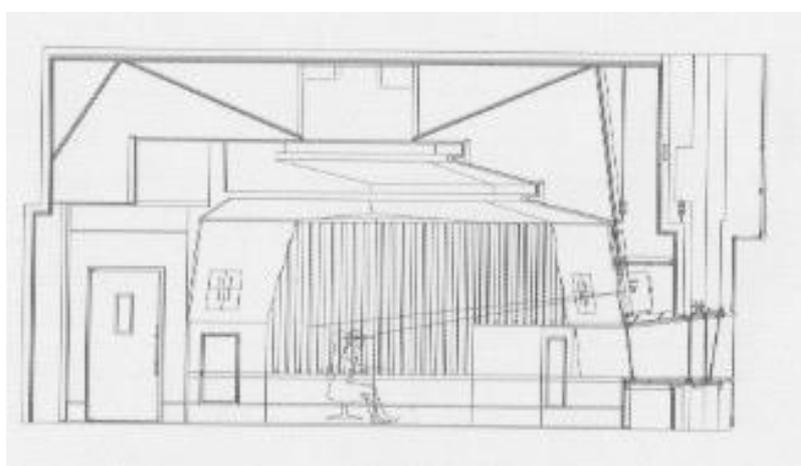
（図 1）スタジオ A 長手（W）方向垂直断面図

次にスタジオ A に隣接する録音調整室（写真 1）もご覧ください。録音調整室の容積は、6,900(W)×7,600(L)×3,900(H)mm と録音作業とモニターには十分な広さを確保しています。この録音調整室の長手方向垂直断面図は（図 2）となります。

また主な機材は、ミキシングコンソール：adt-audio SRC51、モニタースピーカー：Musik Electronic RL901K×5(L,C,R,Ls,Rs)、BASIS 4K×2(LFE)、Genelec 8040×2（ニヤフィールド用）、DAW：degidesign Protools HD(192 I/O×4)です。



(写真1) 録音調整室内部、ミキシングコンソールを操作する同大学院修士2年椎葉さん



(図2) 録音調整室長手(W)方向垂直断面図

さらに今回は欲張ってスタジオ B も撮影させていただきました。ここではちょうど 22.2ch のサラウンドスピーカーによる実験が行われていました。そのスピーカー配置やスタジオ B の雰囲気もお楽しみください (パノラマ映像 2)。

尚、ここではバックには 2ch にミックスダウン (オリジナルは 22.2ch) した音が流れています。映像中央部は指導教官 亀川 先生と今回の 22.2ch のサラウンドサウンドデモしていただいた同大学大学院音楽研究科修士 1 年生の蓮尾 美沙希さん。またこの部屋で用いられているスピーカーは KS Digital C5-Coax (同軸アクティブスピーカー) × 22 台と同 ADM B2 (アクティブ LFE) × 2 台です。

スタジオ B の容積は 6,800(W) × 6,800(L) × 4,500(H)mm、床面積は約 44 m<sup>2</sup> の正方形です。

実は、昨年私はこの部屋で 22.2ch のサラウンド音源を聴かせてもらい、とても感銘を受けました。それは同大学の卒業研究発表で当時音楽環境創造科 4 年生、蓮尾さんが制作したロバート・ルイス・スティーブンスンの隠れた名作「子供の詩の園」の朗読に効果音と BGM を付けたものです。私は今まで 22.2ch を含む種々のサラウンド音楽ソフトを聴いてきましたが、この詩の物語を聴きながらバック音楽、そしていろいろな効果音が空間に広がるさまは全く別次元の体験でした。



スタジオ B (パノラマ映像 2)

まるで、スティーブソンが描いた空想の園に導かれたような錯覚を憶えたのです。私はかつてエディンバラの彼が幼少期を過ごした家を訪れたことがあります。その家にはプライベート公園がつながっており、そこには小さな池や小川がありました。彼の有名な小説「宝島」もその池や小川で遊んでいるときに生まれたといわれています。まさに、その庭が「子供の詩の園」にも描かれています。そして、これが 22.2ch サラウンドという音響効果で見事に表現されているのです。私は音楽のみならずこのような子供の夢の世界を生き生きと描けるサラウンドサウンドの新しい効果を改めて感じました。この作品の音楽や効果音などの作曲は同大学大学院音楽研究科修士課程 2 年の上水樽 力さんが担当しています。

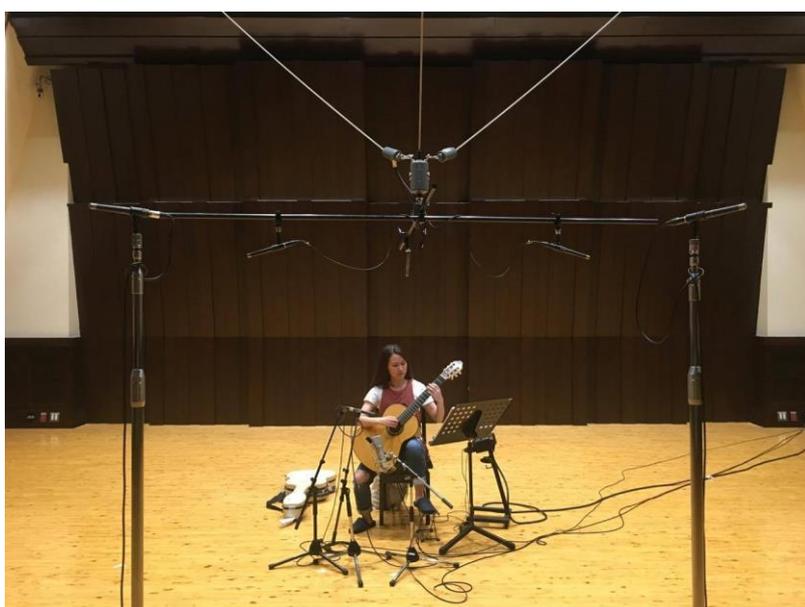
因みに、この 22.2ch の録音・ミキシング制作者 蓮尾さんは、日本オーディオ協会 2015 年第二回「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」にチェロのみの多重録音作品「Deep Sea」(5.1ch 48kHz/24bit)を応募し、100 点満点中 82.5 点という高得点で最優秀賞を受賞しています。また彼女は、昨年秋ロサンゼルスで開催された第 141 回 AES「学生録音コンペティション部門」にアコースティックギターの多重録音作品を応募し、ここでも金賞を受賞しています。まさに将来が楽しみな若手録音エンジニアの一人といえましょう。この演奏を担当したのは同大学大学院音楽研究科博士課程 1 年志野 文音さん。また、作曲は先の作品と同じ上水樽 力さんです。これこそ演奏者、作曲者そして録音制作者が同じキャンパスで学んでいる強みといえるでしょう（写真 2、写真 3 参照）。

この東京藝術大学音楽部音楽環境創造科は 2002 年に設立され、2004 年より毎年約 20 名の卒業生を輩出してきましたが、現在録音関係の仕事に進んだ卒業生は約 20 名、大学院卒業生では 4 名を数えるとのことでした。

最近、ここ東京藝術大学だけでなく多くの大学や専門学校で高い専門技術と芸術、さらにその知識と知恵を学んだ優れたエンジニアたちが育ち、世界の舞台でチャレンジしている姿が実感でき、オーディオの未来がとても明るく感じられます。このような若い力が明日を拓いてくれることを心より願っています。



(写真2) 左、ギター演奏者志野さん、中央、録音・ミキシング蓮尾さん、  
右、上水樽さん



(写真3) スタジオ A での録音カット写真、5.1ch 録音のマイクツリー、  
そしてギター用マイク位置が確認できます

#### パノラマ画像の操作説明

- パノラマ写真は、ここか、はじめのページ画像をクリックしてご覧ください。  
(ローディングに若干時間がかかる場合があります。)
- マウス操作で、画面を上下・左右 360 360 度、自在に回転してご覧いただけます。
- 画面下にある操作ボタンで次の操作ができます。
  - + 画面のズームイン
  - 画面のズームアウト
  - ← 画面の左移動

→ 画面の右移動

↑ 画面の上方向へ移動 画面の上方向へ移動

↓ 画面の下方向へ移動 画面の下方向へ移動